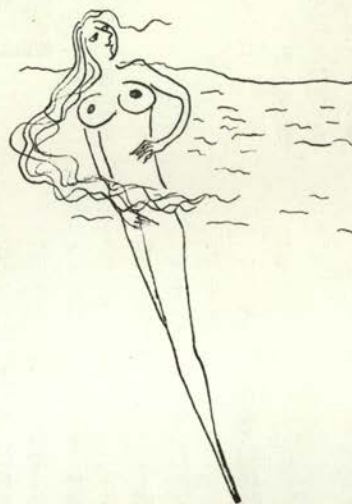


随想三題

ゾツとする話



カット・宮本のり子

あつ

食べたら

あきまへん

宮本のり子

ハマンガ家V



「あなたも結婚して主婦になったら台所をやる事ですし将来の勉強になると思うから、食品公害をマンガにして下さいよ。」「ハア：マア：食べることは、死なない限りやめるわけにいきませんさかい：マア、マア：やらせていただきますわ。」ステキな男性に頼まれ、又かきかねて素敵なおばさま方に頼まれて、食品公害マンガをひきうけた時、私は正直いって不安であ

つた。もともと愛する飲み物といつたら琵琶湖からのミネラルウォーター、好物はにんじんの生かじり、そこに這ってるトカゲの丸焼き(ウソ)といったところだったから：しかしやってみて驚いた。アイディアが山ほど出てくるのだ。自分の中の無知さ、オッチョコチョイさに、素朴さ、古さが皆マンガの材料になってしまうのだ。恥しくってゾツとする。ある日など危やうく「ああ、あのイモ娘斜め上見て絵描いていたけど、イモ食ってガタガタになって死んでもたが：」といわれそうなことがあったりした。以下はその時のノンフィクションストーリーである。その日は特別おなががすいていた。△なんでもおいしくいただきますよ△と私は台所へ突進した。天井のネズミが後からトコトコつ

いて来たと思えるほどだ。：あつおなべにいったばいシチューが入ってる。食べよかなあ：と思つた時、いわゆる例の第六感が働いた。△いや、ちよつとまでよ：あのシチュー食べていいの？△と聞きに引き返す。すると家族の者がニヤリと私を見つめながら：△それは食べたらアキマヘン△という。即ち、スーパーでたくさん買って来たジャガイモが悪かったというのである。電話したら売り場主任が飛んで見に来て、やがて御菓子持つてわびに来たというわけだ。そういうえば見たことないほど大きなビスケットの函が置いてある。「えらい黄色いなあ、大きいばかりでこれもおいしくないやんか：卵のかわりに色粉いっぱい入れてんのとちがうか：△とにくたらしいビスケットにどんだん手をのぼしながら、私は彼女に問いかける。「なんせ、ものすごく変な臭いがしたわ、保健所へ持って行って調べてもらおうたんやけど、うちで調べますさかい、いやはって、残りのジャガイモ全部持って帰ったわ」と彼女は静かに笑っている。「フーン、やっぱり残留農薬やるか：」と私がポツリといっただけで：：：話はずりになってしまつた。今では誰もその時のことなど話すこともない。

世の中に何かがおこる。その時

死ぬ人もある。生き残る人もある。死ぬ苦しみが苦悩する人も出来てくる。誰かが何とか言う。月日は流れる。それで終わりだ。終わりでないかも知れぬ。……わからない。私にしても絵を描いて毎年東京と神戸でかざってもらう。今年にはピアフラの飢えて死ぬ子を描いた。天空に浮びつつ手をさしのべる絵なのだけれど……寂しくてゾツとする。大きい絵なのでどこかもらってくれたらと思っている。

今年も八月六日から、新しくつくられた原爆の映画が上映されるということだけれど……。

偽の始まり

偽の救い

藤野 勲

△舞台空間創造グループV



ペンを握ることから、始まる。その次は、例えば、と書いてみればよい。

例えば、雨。

雨は救いだ。

と書いてしまつて、雨の朝の私鉄の、あの肌に粘りつく胸苦しさを忘れてしまつていることに、気づいてしまつて。

日常の逆襲だ。

いつも、いつも、しつぱ返しを、忘れてしまつて。

救い、などというものの、所詮、幻想。

雨は救いだ、と書いてみることで、いくぶんかは救われるのかも知れない。

例えば、少年。

少年は、果てしない豊饒。

しかし、翌くる日はもう少年ではなくなっているという存在こそが、実は少年の本質なのだ、ということに気づいてしまえば、それがしつぱ返しだ。

いずれにせよ、少年を、ことばで誘拐するなんてこと、出来やしない。

例えば、サングラス。

どんなことも、哀しみの屈折を経なければ、もう俺には届きはしないのだから、だから俺はサングラスをはずさない——と決意してみたところで、それは、若さの感傷だ。哀しみ、ということばがあつてサングラスが在るわけではない。

どこまで行つても、それが事実だ。

例えば、肉体。

痛むのは、いつも肉体だけだ。

というにしろ、肉体は痛まない、痛むのは意識なのだ、というにしろ、肉体ということばの中に、生身身のこの肉体を封じ込めようという試みの無謀さを意識してしまえば、空恐しさに、立ちすくんでしまつて。

例えば、煙草。

煙草の苦さの感覚を、口で、喉で、心で忘れまいとすることは、このような時間の流れにいては、困難だ。いつか、煙草屋で受け取った小さなピースを、大事に両掌でくるんでもどつたことがあつた。しかし、本当に大事なものは、両掌では、くるめない。

煙草という不可思議な△もの▽と、煙草という魅惑的な△ことば▽との間に広がる、茫漠とした暗い空間こそが、俺にとつての、煙草なのだろう。

恐ろしいのは、この暗い広がりだけだ。

しかし、本当は、茫漠とした暗い空間なぞ、どこにも在りはしない。ペンを握るといふ行為が生み出してしまった、偽の空間、偽の恐怖だ。次の瞬間、このペンを投げ出してしまえば、それではないか、お終まいだ。

偽の救いの、訪ずれる瞬間だ。

現代の怪談

白坂 能朗

△甲南病院外科部長▽



しばらくは
蚊帳吊る音の涼しさに

夏、怪談のシーズンである。
近頃はとみに季節感というものがうすれてしまった、ということをよく聞かされる。

この季節になると、私共の少年の頃には、夕方、縁台を持ち出して腕白仲間と将棋をさしたり、花火に興じたり、蚊取線香の煙の匂い、灯火に群がる小虫、蚊帳をはじめ吊る日の、あの樟脳くさいごわごわした繊維の感触、吊手の金具の鳴る音、そして夏の夜のわけもない解放感の中に、そんな年頃の恋の情念のかけらもちらばって夏とはこんなものだというなつかしい季節の折目があった。

こんな風物の中に、忘れられないものは、祖父母たちに寝物語に聞かされた怪談であろう。夜も更けたからとたしなめられながらも、妖怪変化の話をせがんではずつとしたりワクワクしたりしたものだ。

エア・コン完備のマンションやコンクリートの文化住宅の暮しては、蚊帳を吊るなどという閑雅な思いを楽しむ雰囲気にはほど遠いし文字どおり貧乏閑のない毎日に追われ、ヒュー、ドロドロ……：キヤーツ、楽しい恐ろしさを受付けるほど単純素朴な心情ではいられなくなってしまう、これこそまことに心寒い限りというべきだろう。

いろいろな殺虫剤、農薬などのせい、蚊も蛾も、その他の小虫もすっかり数少なくなってしまった蚊帳を吊る習慣も近頃は珍らしいことになってしまった。小虫がいなくなつたので、これを餌にしている小鳥も姿を見ることが少なくなつた。

ある焼鳥屋で雀を注文したら、まだ米が実らないので、今は雀を獲つてはいけないんですといわれ雀を獲つてもよい時期と、いけない時期とがあることをはじめて知つたと同時に、人間の手前勝手さにあきれ果てたものだが、一体、害虫だとか、益鳥だとか、ほんとは何の意味もないあさはかなとりきめで、書をされたりしてみたり、益を受けたりと与えたりで、己れの存在が他を支え、他の存在がめぐりめぐって己れの役に立ちながら、この世の万物がバランスを保っているという、単純だが侵

すべからざる大きなルールを無視しては、自然に対する反逆もはなはだしい。蚊に刺されるのがいやなのなら、せいせい蚊帳を吊って防げばよいので、昆虫を皆殺しにすることはないわけだ。部分的自然破壊というものだろう。

戦後、経済力が急激に伸長して私達も、戦争中の海ゆかば式没個性に引続いて、産業資本という鑄型にはめ込まれ、画一的、機械的非人間的生活を余儀なくされているわけだが、鉛、水銀、カドミウムや騒音、光などという形の無いものにいたるまで諸々の公害、産業災害は、まさに由々しき問題である。

直接目に見えるところで己れにかかわりがなければ、誰しも涼しい顔だが、放置された公害と低い人件費に支えられた経済大国などという砂上楼阁を見て、喜んでばかりはいられない重大事である。これら水俣病、イタイイタイ病などの公害の因たる企業も、これを指導監督しなければいけない役所も、ジャーナリズムが騒ぎたてなければそしらぬ顔で、世論が喧しくなると、そんなに神経質になるほどのことはないではないか……：などとうそぶくのはまことに奇怪千万で、これこそ誰しもが「ゾツ」としなければならぬ現代の怪談というべきだろう。

川崎重工の潜水艦設計部はいわば「水中の乗り物」の研究・開発と設計を担当する部門である。

同部では、防衛庁向けに昭和三五年、戦後はじめての国産潜水艦「おやしお」を誕生させて以来、

今日まで、六隻の潜水艦を送り出した。この技術を利用して、昨年は、わが国はじめての本格的潜水調査船「しんかい」を開発、完成

調査などに使用されている。

この船は排水量約八五トン、乗員数は四名で、六〇〇mの深さまでもぐることができ、水中約三・五ノットのスピードで走ることができる。

観測装置としては、マニピュレータ、プランクトン採取装置、採水装置、採泥装置、水中テレビジョン、音速測定装置など多数備え

ており、多目的船として地質、生物、地球物理など広範囲な調査、研究が行なえるよう配慮されている。また、この船は

世界でもはじめての試みである脱出球の装備や、船が万一誤って安

全潜航深度をこえて潜入した場合に自動的に浮上させる装置の採用などすみずみまで安全第一を考慮して設計している。

現在建造中の小型水中作業船は日本舶用機器開発協会の補助金を受け、わが国ではじめて試作するものである。この船は水深三〇〇mまでの大陸棚において、海底ケーブル、海底パイプライン、沈埋

トンネルなどの敷設・検査、海底掘削作業の検査、海底油田坑口仕上げ作業・検査、さらには橋脚や護岸の基礎工事と測量作業などの海中工事を行なうとともに、それらに必要な無人単能機の操作司令船ともなり、またダイバー作業との協業・支援にあたり、ダイバーができない重量物の移動・牽引作業に当らせることを目的としている。この船は、全長約六・三m、中約一・六m、深さ約二mという小型船で乗員数は三名、速力は約三・五ノットである。油圧式のマニピュレータ、投光器、音響探信機、音響測深機、水中通話機など多数の機器を備えているほか一四の視窓をもっている。

同部は今後の課題として水中掘削船、水中乗用艇、六、〇〇〇mも深くへもぐれる調査船など山いっばいにかかえており、部員の夢は海の底へ果しなく広がっていくのである。一九七〇年代は海洋開発の時代といわれる。海洋開発が本格的に進むにつれて、川崎重工潜水艦設計部の使命はますます大きくなる。その時こそ、各方面からの期待に充分応えられるよう全員が一致協力して日夜努力をかたむけている。

ある集い・その足あと
川崎重工業KK潜水艦設計部

★ 無限の宝庫—海洋の開発に挑む

海底へ果てしなく広がる夢を追って

広報部・魚山洋志



し、さらに現在小型水中作業船を手がけるなど、日本の海洋開発時代の幕あけとともに、たえずトップを切って積極的な活動を続けている。

潜水調査船「しんかい」は川崎重工神戸工場で建造し、昨年三月注文主の海上保安庁へ引き渡したもので、日本近海の大大陸棚の地形および地質調査、漁場調査、海象

△連絡先▽川重潜水艦設計部

神戸市生田区東川崎町二丁目一四

電話(六七)五〇〇一



価値あるロンジン

ロンジンは 万国博で10回もグランプリを受賞しているスイス時計界の名門です。

ロンジンの時計には ロンジンに与えられた数々の栄誉と一世紀にわたる伝統の技術が結晶しています。最も信頼され 最も名声の高い《ロンジンの時計を持つ誇り》そこに価格以上の偉大な価値が秘められています。

ロンジンは 大阪の万国博(スイス館)にも出品されていますから ぜひご覧ください。

ロンジンの本当のすばらしさは 当店です。実際にお手にとってお確かめいただけます。



LONGINES

特約店

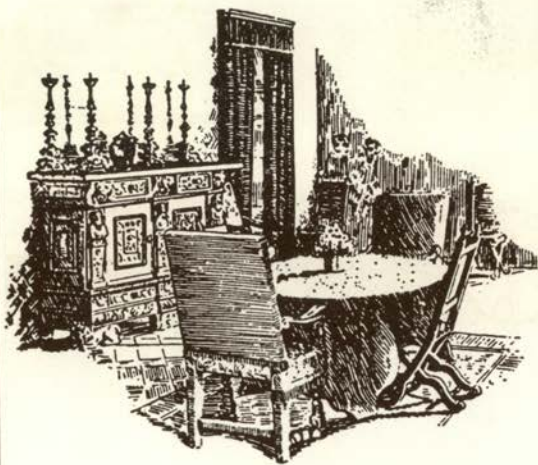


美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL33-1798

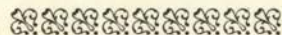
三宮店・さんちがファンシー・タウン TEL33-8798

家具・室内装飾・工芸品



永田良介商店

神戸市生田区三宮町3丁目大丸前 TEL神戸(39)3737(代表)
東京店・東急百貨店 { 日本橋店内1階 TEL 03(211)0511
本店(渋谷)7階 TEL 03(462)3180
工場 神戸市垂水区多聞町小東山975-35
神戸木工センター TEL(078)76-5005(代)



バウムクーヘン

古木の年輪を表わしたお菓子で、北欧(ドイツ)では古くから
長寿のお祝いに貴重な高級菓子として愛用されています



北欧の銘菓

ユーハイム・コンフェクト

本社・工場 ■神戸市灘区区画内町1(市立美術館東隣) TEL22-1164(代)
三宮センター店 ■神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・レストラン) TEL33-2421(代)

□れんさいずいそう XV

水道筋哀愁

林田 重五郎 (随筆家・写真も)



水道筋の市場は神戸一安いそうだ

神戸のよさ、そして神戸っ子のうれしさは、神戸に住んでみないと本当のところはわからない。それも門や生垣のある屋敷町ではダメ、長屋も混じるチマタに住み込んでこそ、身にしみて味わえる。

数年前、灘区の水道筋の近くの天城通に、二年間ほど暮らした。向いが酒屋さん、東隣りがタバコ屋さん、北隣りが建築業。ビールを買い忘れても、お向いに声をかけると冷えたのがすぐ手にはいる。タナをつるのも、本箱を作るのも、北隣りに頼むと、すぐ駆けつけてもらえる。親切なものである。

しかも神戸っ子の特色というのか、どこから来たとか、どこ出身だとか、立ち入ったことにはお互いあまり触れない。プライバイシーを尊重する気持が自然に備わっていて、のびのび暮せるようになっていく。

いうまでもなく神戸は開港以後に出来た都市である。兵庫など部分的には古い町が混っているものの、大部分は新来者が造った町である。向う三軒両隣がみな他所から来た西部に似

たところでは、前歴や由緒を問いたずなど野暮
というものであろう。古い城下町のような大金持
や大地主も少く、みんな一線に並んでスタートし
たのである。

住んでいた天城通にしても、戦災は免れ、古い
建物が多いものの、三、四十年前は畑地だった新
しい巷、神戸っ子気質が濃厚なものも当然であろ
う。ビールをよく飲むので、酒屋さんとは特に親
しくなった。古服類を郷里の作業衣にするからと



軒先に植木を並べる天城通のチマタ

受け取ってくれた酒屋のおばさんは、ほどなく乾
魚をたくさん、お返しにくれた。それで漁村の出
身とわかったわけである。

転居して後も、わざわざ遠路ビールを届けてく
れた。しばらく足が途絶えているので、たずねて
見ると、ある夜、コツ然として店をたたんで一家
は姿を消したとのこと。商売の失敗のためではな
く、若主人が悪い借金をしたのではなからうかと
の近所の風説であった。あの親切な一家は、どこ
の漁村で日を送っていることであろうか。いま
その家は取り払われて駐車場になっている。



神戸で一番物価の安いところは？……水道筋
の市場という説が高い。現にずい分遠くから、
昔は市電、今は市バスに乗ってここへ買物に来
る主婦が多い。

灘中央市場と畑原市場が並び、水道筋商店街
が接していて、市場内も町も同業多数、自然競
争もはげしく、安くすれば良く売れ、売れば
新しいものを安くできる好循環が続いているの
であろう。

最近もちよつと覗いて見ると、ナスビ十一個
九十円、キュウリ四本七十五円、ペラ八四百二
十円、中の生けサバ二匹百円、中アジ五百
円、茂木ビワ十個百円、スイカ四つ切百円、ト
マト大五個百円……書くと切りがない。一個十
円のタマゴもあれば、他所では二十五円か二十
円はするカシワモチが十五円である。

とにかく阪神間の物価の高い市場から見ると、二割方安い気がする。しかも魚にしても果



阪急のガード下を南へくぐると、市場が見える。ここも軒に植木鉢。

に人と店と物とがわき立っているようなこの界限である。

ここに住んでいるとき、行きつけになったワイシャツの専門店がある。主人自ら仕立ててくれるのだが、体にピッタリ合って、どこで作るよりも気心地がよい。しかも値段が二、三割安い。引越してから数年になるのに、わたしは今も、ワイシャツを作るときはこの店へ、三宮からタクシーに乗って、注文にゆくことに決めている。



このあたりのもう一つの特徴は、みんな植木好きだということだ。庭はない。軒先きにレンガやブロックで、一平方メートルくらいの土地を造って、木を並べている。そのスペースもない家は、リング箱庭園か植木鉢だ。鉢を二十ほど置いている家はザラである。

観葉植物が多いが、バラやササなどもある。シーズンの朝顔を育てている家も多い。みんな楽しんでる。そのためもあって、園芸店が数多く目につく。それも鉢ものが主である。金魚屋さん、小鳥屋さんもある。土の少いチマタのなかで、自然にひかれていく人々の姿は尊い。

昔ながらの駄菓子屋の多いのもなつかしい。玩具に子供たちが寄っている。可愛い子ネコをもらって下さい、とのハリ紙が、お好み焼屋にぶら下っていた。ここはそんな暖かい人間味のある街である。

物にしても、より新鮮に見える。これでは人が集まるのは当然だ。魚屋が並び、八百屋が鉢合わせしていても、みなよく売れている。

そのうえ市場をめぐるって、さまざまな生活の専門店がある。穴かがりいたしますの看板、トギもの洋がさ修理の屋台店、クジラだけ売っている店、仏具店に漢方薬店、ステンレスの流し台だけを並べている店、万年筆のみの店など……。

サア、コーテコーテ（買うて）の呼び声のなか

□ ずいそう □

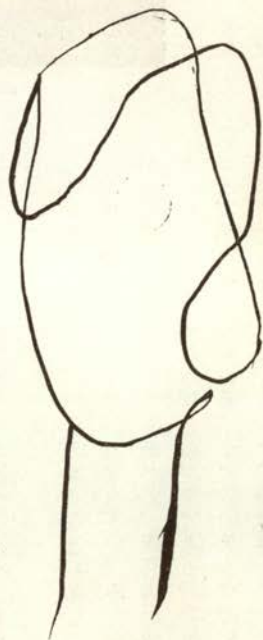
神戸と神戸っ子

庄司 薫
え・津 高 和 一

多くの友人でパリとニューヨークで六年過して帰ってきたやつが、東京があまり激しく変わったのにすっかり呆れ果てて、まるで「オノポリさん」の気分だといっていました。

そういわれて改めて考えてみると、確かに東京の変貌ぶりというのは猛烈だと思えます。東京オリンピックに備えての大変化は、もっぱら地下鉄に高速道路といった、いわば東京の立体化という形で行なわれたわけで、これだけでも相当の「迷子のタネ」みたいなところがあります。

ところが、東京の変化は、立体化だけでなく水平への方向にも激しいわけです。つまり、かつては山手線の内側がせいぜいだったのが、練馬区とか世田谷区とか太田区とかいった外側にもぐんぐんのび、さらに戦後になると、都下北多摩郡なんて感じの近郊の田舎が、そのまま大都市東京につ



ながってきて、最近では千葉県に埼玉県に神奈川県なんてのが、「首都圏」という名で東京の一部のような形になってきているのです。

これでは、パリやニューヨークからやってくるも、東京では迷子のオノポリさんになるのが当たり前かもしれない。

つまり、東京というのは、なんといってもまだまだ広い関東平野のまった中にあるわけで、そこからこの激しい水平式変化にたえず見舞われていることになるらしいのです。そして、もちろん立体化の方は、古い民法の解説ではないけれど、「上天空から下奈落まで」変化の可能性（あくまで可能性ですけれど）を持っているから、結局のところ東京というのは、上下にも左右にも、常に激しく変貌に見舞われ続けざるを得ないことになるのでしょう。

そして、このような変化が、そこに住む人々にも、さまざまな影響を及ぼすのはいうまでもないことです。まず第一に、このような東京の「高度成長」を支えるために、絶えず東京以外から沢山の人がやってくるといふことがある。そしてこのことは、たとえば「神戸っ子」と同じような意味での「東京っ子」というものの勢力が、東京では常に低下させられるような結果を導きやすいわけです。いわゆる「東京は巨大な田舎」といったいい方は、このような東京の人的構成のためであるといえるかもしれません。

以上のようなことをひっくり返すと、そこにならうやら神戸とそして「神戸っ子」のよさみたいなものがそのまま出てくるんじゃないか、というのがぼくの感じですよ。

つまり、ぼくの感じでは、神戸というまちには、東京における比較的古い都会的一部分のように思えるし、「神戸っ子」というのも、玉石混淆の東京人の中の都会的部分を集めたような気がして、つきあいやすいように思える。

そしてこのことは、いまいった東京との比較においていうと、たとえば神戸が山と海との間にはさまれていて、その発展が幸いにも限定されるといふ地理的条件のおかげを多分にこうむっているのではなからうか。つまり神戸は、御存知のように、その「水平方式」の発展は、ただひたすら左右に伸びていくばかりで、こういった伸び方に限りがあるのは何も鰻ばかりではない。しかもさらに幸いなことには、そばに大阪という相当の大都市があるので、周辺の「上京組」は、どうもみん

な大阪を目指していく。

そしてこのような「幸運」の結果として、神戸は、そのまち自体が、東京のような「都会」という名の巨大な田舎」になるほどの過激な変化からまぬがれると同時に、そこに住む人々も、常に「神戸っ子」といったある安定した都会的雰囲気を通じて養い続けていられるのではないだろうか、と思うわけです。

ぼくは最近では、五月の初めに講演会（／＼）をかねて神戸へ行きましたが、ちょうど一年前の五月にも、山陰地方を旅行した帰りに神戸に寄りました。ぼくはめったやたらと好奇心が強く、従って旅行が大好きですが、その一方では、永く田舎を旅していると、なんだか東京というか都会が妙に懐かしくなるような変なところがあります。ですから昨年のも（ちようど）「赤頭巾ちゃん気をつけて」を発表したあとでしたが、のんびりと出雲大社でおみくじを引いたりして過してきて、そして神戸についた時は、なんとなくほっとしたような気持ちになったものです。

△作家▽



庄司 薫氏

静かに日本を楽しむジョージ・チャキリス

ジョージ・チャキリスといえば「ウエストサイド物語」という強烈なイメージがある。ミュージカル史上にのこる映画だった。そのチャキリスが日本公演の全スケジュールを終えた後、昔屋の友人の家で休養しているという。夕方万博へ行く前に時間があるからインタビューにきてほしいよと、チャキリスの友人である森本さんが電話をくださった。どうも一人では後から女性ファンに



ジョージチャキリスを囲んで、右からデビットさん、今岡さん、加藤さん、森本さん

恨まれそうで、急きよモダンバレエの今岡頤子さんと加藤清子さんを同行して梅雨の第二阪神国道を走った。

× × ×

湯上りに白いビケのシャツルツクで長身のチャキリスが、広い二十畳はあるだろうと思われる日本間の鴨居をくぐって現われた。

「ウエストサイド物語」のプエルトリコ側のベルナルド役で紫色のシャツに浅黒い肌、細く、アメリカの宿命的な暗い影のあつたシャープなダンスを思い出したが、あれも十年前になる。実際に出会った感じは、もっと柔らかな、甘さと繊細さがあり、長くなった髪に黒い大きな腫が印象的だった。

「日本の桜のお風呂がとても好き」というチャキリスさんに、友人のデビットさんは「東京、宮城、京都、大阪、岡山、神奈川と五月十三日に来日してから一ヵ月、毎日公演で、彼は日本のキタナイ楽屋しか知りませんよ。いつも忙しい。だから日本を感じたいと思ってもらいでしょう。それでこの家に誘ったのです」と。三百年は経ているという屋敷、畳の上で日本を静かに楽しんでいるわけだ。

「日本公演の後は、ロサンゼルスに帰って、今度はパリでミュージカルを公演します。その後九月に「スペクタクル」という「シエルブルーの雨傘」の監督ミシエル・グランドの演出で、タイを舞台にしたミュージカル映画の主役の話があるのですが……」という。映画評論家小森和子さんの話を引用すると「ウエストサイド物語」のあとではめったなものには出られない。せっかくのファンに幻滅させるのはボク自身耐えられないし、自信のもてないものには乗り気になれないから」といっている

のでかなり、作品は慎重に選んでいるようだ。

——ウエストサイドストーリーのどの場面が好きだったかときくと、すかさず「アメリカノ」。清ちゃんなどは四、五回みて「アメリカ・アメリカノ」の場面では映画と一緒に映画館で踊りだしたという大笑い。それほど、最高にダイナミックなダンスシーンだった。——今まで仕事をしてきたなかで誰が一番よいと思う？

「ウエストサイド」を振付したジェローム・ロビンズを一番尊敬していますね。この人は単なる振付師ではなくて映画のストーリーの意味を理解し、それを想像力とフィリリングで振付の発売をする。だから、映画の劇からダンスへ移るとき、ダンスから劇に移るときの流れがきれいで、ダンスそれ自身がもう、物語の部分にはまりこんで

しまっています。その点、彼は素晴らしい芸術家ですよ」

——これからはどんな役柄をやってみたいですか

「ミュージカルに関してはもちろんですが、芝居の演技の方にも巾を広げてゆきたい」

——日本の印象はときくと「やはり舞台で踊って、観客の反応をみるのが大変楽しいですね。それと日本のタベモノが好きだ。『アシヤからの飛行』のとき七週間日本にいて、アメリカ人の友人で京都をよく知っているのので案内してもらっていらい、静かに日本を楽しむのがいいですね。そういえばニューヨークでは、日本のバレリーナの公演があってタイムの批評は大変好意的だった。日本で私が一緒に共演した中野ブラザースもダイナミックでいいと思いますね。日本の女性？ 優しいです。空港

へついた時サンダラスをかけていたら、疲れているんでしようと言葉を送ってきてくれましたよ」

ロスアンゼルス
の家にいる時は、
毎日一時間半はク
ラシックバレエの
レッスンをやって
いるというジョー
ジ・チャキリスは
さすが世界のミュ
ージカル・スタ
ー。新しい「ウェ
ストサイド物語」
をしのご作品に早
くお目にかかりた
いものだ。

「日本の検の風呂が好き」と甘さを漂よわせるプロフィール





ネクタイの

元町バザー

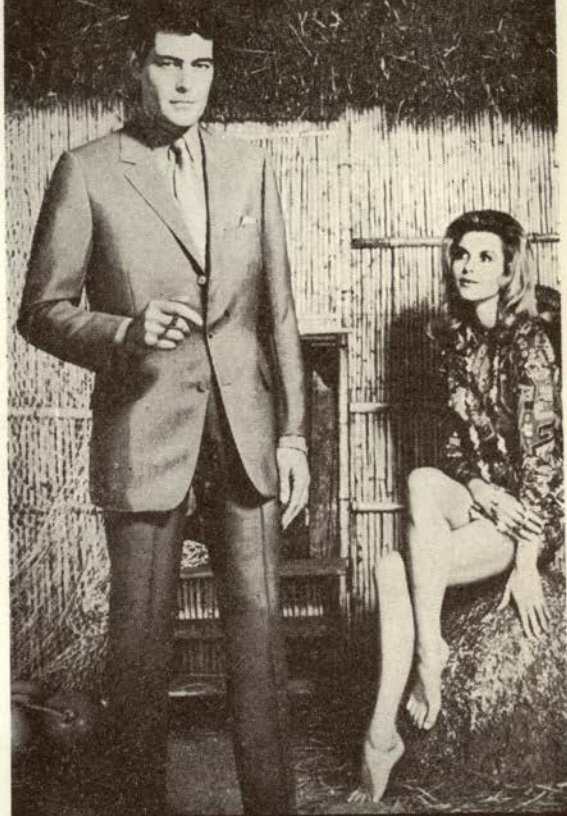
神戸・元町1丁目
TEL (33) 1410

★仮営業所は山側向い

東京  東急百貨店

渋谷本店・日本橋店

格調ある仕立てで個性ある装いを



O-SHIBATA



柴田音吉洋服店

神戸・元町4丁目南 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

神戸経済の多様化を

石野 信一

神戸経済同友会代表幹事
神戸銀行頭取

木津 雅敏

神戸青年会議所理事長
神戸金型工業専務取締役

★旧制高校のパンカラはヒッピーに通じる

木津 頭取は大阪高校とお聞きしていますが、寮に入られていたのですか。

石野 一学期だけ入ったんですよ。須磨に住んでいて親爺が八つの時に死んだものだから、なるべく家庭から離したくないということから、通えるところということで大阪高校を選んだけれど、通学に二時間半もかかるのです



石野 信一氏

ね。須磨から省線で梅田へ、城東線で天王寺に行つて、天王寺から南海電車で北畠まで行くのです。

木津 普通だったら寮に入るか下宿をするかで反対に家庭から逃げ出すのですが、頭取はなかなか親孝行ですね。私は大学は京都でしたけれど、汽車で一時間ちよつとですが、それでも京都に下宿はついて、日曜になると神戸に帰つてきて、洗濯ものと食糧を持ってまた行くのですよ(笑)

石野 大高を出たのが昭和七年なのですが、当時学生運動が盛んになりましたね。大高に入った時の四十人のクラスが卒業する時は二人になっていました。処分ですね。寮歌などみていますと、あの時分のものが一番いい感じですね。先日大阪で寮歌祭がありました、去年、一昨年と出ておりました。私は高知ですけれど、姫路などと同じく大正の末頃にできた学校です。

石野 土佐の高知のはりまや橋で、というのはあなたのところの校歌でしょう。

木津 あれは、よさこい節という民謡ですよ。

石野 あれ、校歌じゃないの(笑)

木津 中学四年の時に、どうせ戦後ですし、地方の方が純朴で面白いだろうと、熊本の五高へ神戸から一日半ぐらいもかかって受けに行ったのですが、みごと振られましてね。翌年は高校が最後で、これから新制大学になるというので、せひまあとというので兄が行っていた高知を受けました。おかげで酒の方がかなりいけるようになりました(笑)

石野 高知には天狗の鼻のような盃があるそうですね。これで酒をつがれると、飲まないでそのまま置けない。だからどんどん強くなるのですよ。

木津 高知では飲めませんといつても一升は飲み、少々しか飲めませんというと、升々だから二升飲むということになり、飲みますというと、ホントウになんぼでも飲みますよ(笑)

石野 旧制高校の生徒が高下駄をはいて、ボロボロの洋

服を着て歩いていたのは、今考えるとヒッピーの精神に通じるものがありますね。一種の反抗期みたいなものでしょうね。僕は大体新しい学校に行く方で、三中が四回生、大高が八回生なのですが、小学校が須磨浦で二一回生ですから、小学校は古い学校です。一学期だけ諏訪山小学校にいたのです。須磨浦小学校という別荘学校といわれて、当時の須磨の金持が寄付してつくったもので、一学年が二、三人なのです。三中では、暮しの手帳の花森安治君、今の宮崎市長も同窓ですが、花森君は女の洋服を着ているが、当時はバンカラで野球の応援団長だったのです。淀川長治さんが一年以上で、あのやかましい時世に新開地へ映画ばかりを見に行っていたように。神戸三中は学校から団体で映画を見させていました。この点は他の学校にくらべて進んでいましたね。

★十年先の経済成長に即応する中小企業の育成を

木津 先日、名古屋青年会議所の例会で開発銀行の下村治さんの講演を聞いたのですが、十年先には日本経済が三・七倍になると言われますと、そういう条件のもとでの地域経済というか、神戸経済はどう考えていったらいいのでしょうか。

石野 下村君は大蔵省で一年以上で、経済同友会でも話を聞きました。最近の新しい経済の問題は、完全雇用を実現したあとの経済をどうするかで、成長を続けないと社会不安になるし、成長を続けていると物価が上がる。その矛盾をどうするかは世界的に誰もが暗中模索ですね。下村君の考えは、その一面をはっきり徹底してうちだしているのです。

木津 所得が大きくなると物価も上がる。多少の物価の上がりにはかまわないという徹底した拡大均衡ですね。

石野 その場合、生産性の低い企業はやっていけなくなるといふ問題が残るのです。ただ中小企業が全部吸収されて大企業でないといけなくなるという考え方はまちがっている。アメリカは日本に比べて生産性の高い経済を



木津 雅敏 氏

地は自然にあらゆる情報関係、商業関係の中心になりますからね。あるいはホテルとか芸術関係とかの施設ができて、神戸が多くの人の集まる場所になり、まだまだ栄える可能性があるので。現に姫路とか播州地帯が栄えてきて神戸に買物をする人が増えている。

木津 すべての道は神戸に通じますからね(笑)

石野 ポートアイランドで、神戸は

外国にも通じるようになる。ただ道路網があまり便利すぎて神戸が通過点になってしまっただけではない。その点、ターミナルとか、いろんな施設を考える必要があるでしょう。

★他都市に比べて神戸は宣伝がうまくない

木津 頭取のように神戸出身の良き先輩が神戸に帰ってこられて嬉しく思っているのですが、東京からみての神戸はどんなものでしょうか。

石野 すべての人がそうだというのではないが、気候が温暖で景色がよくて食物がおいしい、広野にはすばらしいゴルフ場があると、日常生活をエンジョイすればいいという雰囲気がおこっているのではないか。外部の人を受入れるという意味では国際的で解放的なのだが、一方、何となくのんびりしていると外部の人にみられる傾向にありますね。そこは青年会議所が頑張らなければならないとあかん(笑)。神戸の街というのは欧州大戦の時の一時的な海運関係のブームで潤ったということがあるから、それ以後地道に経済構造を多様化することを神戸財界としてはあまりしていないからなんです。中共貿易もできなくなつて海運関係がふるわなくなると斜陽化したムードの時代が続いた。神戸全体としては経済構造を多様化して景気の変動にも大きく影響され

営んでいるのですが、アメリカでも90%は中小企業ですね。これからは中小企業がなくなるといふのではなく、そのあり方がより近代化し、より生産性を高めるものが生き残ることになるでしょう。神戸なども中小企業が非常に多いから、70年代の経済がどうなるかということ、どうすれば経済に即応できるか、生産性を高めていけるかの問題を皆が研究する必要があると思います。十年後に三・七倍の経済成長とすると、工場の敷地など相当の拡張が必要になってくる。一方で公害問題がやかましくなると過疎地帯といわれている所に工場ができてくる。従って兵庫県なども、日本海側や瀬戸内海の周辺地域にどんな企業が進出して行く可能性がある。公害問題からそれを拒絶する体制もおきてきますが、その問題がなければ日本全体が平均的に栄えることもできるのです。

木津 六月の青年会議所の例会で、兵庫県の道路計画の二時間道路を知らず話していただきましたが、その時の兵庫県における神戸市の役割が明確になってきますね

石野 神戸にどんな工場をつくるということは不可能でしょうね。食品工業やある程度の煙がでないものは若干つくる余地はあるが、大工業を持つてくるのは無理です。それがヒンターランドに工場ができてくれば、市街

ないようにするためには、やたら公害は嫌だから工場を拒絶するのでも困る。経済の発展と公害をどの程度調和させるかの問題があると思うのです。ただ神戸だけではないことをやろうというのが無理なので、単位としては兵庫県、あるいは瀬戸内海と考えないといけない。経済的に大阪、神戸がもっと接近して一体化する可能性はあるのですが、これは神戸にとってマイナスなのでなく、神戸そのものの発達するゆえんなのです。東京地域と近畿地域というように日本を二眼レフでみると、神戸は近畿地域の西の窓口にあたる。その意味で、瀬戸内海、四国が発達してくれば、一番近い神戸の存在は非常に重要になってくるでしょうね。

木津 実際に動く手や足の部分は、土地の広い播州地方でやり、考えたりする情報機能が神戸で育って行くような経済構造になるのでしょうか。

石野 神戸は非常にいい街で、服装、アクセサリなどのファッションが発達しているといわれ、そういうイメージは日本中どこに行ってもあるわけですね。ただ、東京からみると神戸はまだまだ遠い。実際には阪神高速で大阪から三十分の距離なのですが、それが昔のイメージがあってまだまだ時間がかかると思っている。そういうことだけでも神戸は宣伝がうまくないね。売出すのが恥ずかしいっていうのか、変にテレしてしまっ、意外に気が弱いところがある。

★麻雀も、ゴルフも敗けるのに苦労するワ

木津 神戸経済同友会は兵庫県全体を含んでいるもので



ゴルフはどうしたら敗れるのかね—石野頭取（左）

すが、神戸という地域に限定されている神戸青年会議所にとって大先輩として、いろいろとお教えいただきたいと思えます。

石野 青年会議所の卒業生が同友会の幹事になっていただいたりしていますが、講演会などもっと一緒にいろんなことをした方がいいですね。それが全体となると無理だけど、幹部の人たちだけでも、同友会の各委員会に顔を出して勉強していただけたらと思います。財界の経済団体というのは会員が勉強しないと意味をなさない。

木津 オープンな交流が必要になってきていますね。最後にご趣味の方ですけれど、麻雀は好きですか。

石野 最近は余りやらないので、点数の勘定の仕方がよく分からない程度です。ふざけて敗れたことがないといっているのですが、不思議に敗れたことを覚えていないのですね（笑）もっぱら宣伝の方ですわ。手つきはモタモタしているから下手なんだろうと安心していると、これが案外あがってしまう（笑）

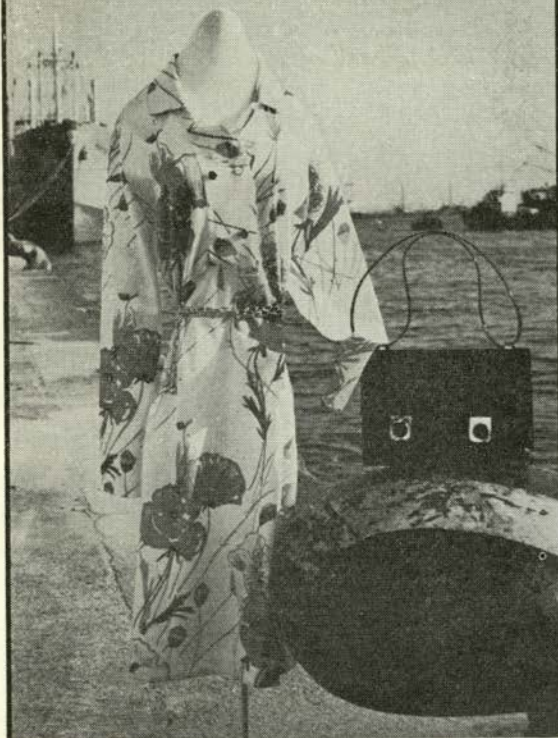
木津 砂野会頭も麻雀は敗けない、といわれているが、あれも宣伝でしょうね（笑）ゴルフはいかがですか。

石野 広野で21なのです。最近是非常に調子がよくて、大体100がされる。オフィシャル・ハンディはあげてくれないけれど、プライベートでは強いのですよ。だから敗れるのにどうすりゃいいかと思ってね（笑）苦しんでいるのですよ。これももっぱら宣伝ですわ（笑）一度、青年会議所と経済同友会でコンペをしましょうか。

木津 いいですね。ぜひやりましょう。日頃の宣伝のほどを十分に見せていただきますよ（笑）

△榮弥にて▽

ヨーロッパからさわやかな
夏の逸品が到着いたしました



美しさを創るオートクチュール

アスター ニュートン

神戸トアロード TEL <33>1818, 1858

大阪阪神 TEL <361>1201

世界の人々に愛される北村パール



北村真珠店

元町通2丁目60 TEL 33-0072

おんがら屋



きものと細貨

おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話 33-8836 (代)

東店/三宮センター街・電話 33-0629

三宮店/さんちかタウン・電話 39-4303

東京

銀座店/銀座並木通・電話573-5298 (代)

渋谷店/東急本店・電話462-3409 (直)

日本橋店/東急日本橋店・電話211-0511 (代)

(5階和装名家街) (4階和装名家街) (内線294)

EXPO'70

万国博記念ゴーフル



・ゴーフル
¥500



・フロテトーフル
¥500

世界のお祭り
万国博のお土産
銘菓ゴーフル



ゴーフル

・ゴーフル
¥300

万博会場内土産品売店
京阪神各百貨店、三番街
さんちか、元町本店にて
販売中

神戸にそだって 70年



日月堂

元町3丁目 TEL.392412~5

さんちかスイーツタウン TEL.393455